JEACS 福音讃美歌ジャーナル

2024.8 vol.37

・リラ･インタビュー・下　塚田献、宮脇栄子　聞き手：中山信児　1
・青年の賛美と教団の働き　下川羊和　5
・『音楽教程』ボエティウス　中山信児　6
・「福音讃美歌セミナー in 札幌」のお知らせ　6

Japan Evangelical Association for Congregational Singing

■リラ結成 30 周年インタビュー・下

リラ：塚田献、宮脇栄子　　聞き手：中山信児

中山　ずっとお聞きしたかったんですが、お二人の音楽や言葉の感性とかセンスを形作ってきたものがあると思うんですけど、そういうものを紹介していただけるでしょうか。

宮脇　私の母がレコードをいっぱい持っていて、その中でもモーツァルトの「クラリネット五重奏曲」が心にキュンとくるすごく良いメロディーで大好きでした。母が見た映画「幸福」で流れていた曲で、母はそれを子どもたちに聴かせては「イメージを想像して。感じたこと言って。」みたいに尋ねてました。言葉の方では、母は勉強はあまり教えなかったんですけど、詩の宿題とかでは「もっと広がりをもって」とか「深いところ考えて」とか「もっと想像したら」という助言はしてくれていて影響受けたと思います。

中山　確かに宮脇さんの詩はイメージがすごく伝わってきますね。私もそうなんですが塚田先生の詩は論理的なところがあるけど、宮脇さんの詩は、イメージがそのまま言葉になっていて、聴いた人がイメージを再現できるようなところがあって簡単に書けるもんじゃないと思います。モーツァルトの他に好きな作品とかありますか。

宮脇　バッハの「G線上のアリア」とかも好きですけど、やっぱり「クラリネット五重奏曲」が本当に好きで、大人になってもたまに聴きたくなってＣＤを買ったりしてます。あとクラリネットっていう楽器もすごくいいですよね。
言葉の面では、高校の時に銀色夏生さんっていう詩人の詩がすごく好きでした。かなり流行ったんです。この人も心に思ったことをそのまま書いてる感じがして、心にストンって入るような詩なんです。

塚田　僕は、父の影響で身近にあったクラシックをよく聴いてましたね。小さい時は大学の吹奏楽部の演奏会とかにいつも連れ行ってもらいました。でも特にクラシックに傾倒したわけでもなかったです。心に残ってるメロディはサン＝サーンスの「白鳥」かな。それが幼稚園のお昼寝の時に流れてたんですけど、

あまりに美しすぎて寝られなかったのを覚えてます。他の子はみんな寝てるのに、僕はこれを聴いていたいと思って、ずっと寝ないで聴いていました。
小４ぐらいの時に、ラジオでサイモンとガーファンクルの音楽が聞こえてきて、調べたら母も大好きなグループで、レコードを買ってもらって、とにかく聴いてました。それがきっかけで母は僕が聴きたい音楽は必ずレコードを買ってくれましね。小５ぐらいでＹＭＯが出てきて、全然違う音楽なのでびっくりしました。当時、教会でＹＭＯを聴いてる人もいなくて、世間でもすごい流行ったけど評価が別れる感じでした。そしたら父の先輩の先生が、僕にＹＭＯのカセットテープをプレゼントしてくれたんですよ。その時は、教会の先生で父の外にもこれを聴いて良いっていう人がいるんだって、すごく嬉しかったですね。

中山　その気持ち、よく分かります。私も高校の時、自分のバンドのコンサートに、教会の牧師が来てくれたのが嬉しかったですね。自分の好きな音楽が否定されてないというか、そういうのも神様のためにきちんと使うんだよって見守ってくれてるみたいでそれは励まされましたね。

塚田　僕も自分の中で、いろんな音楽を聴きたいとか、聴いていいんだとか、いろんなものが用いられればいいなという気持ちが広がっていきました。
その頃の音楽で今も影響を受けてるのはオフコースですね。僕の中では多分コーラスとか世界観がオフコースなんだと思います。それが小６ぐらいで、聴き始めたのは解散に近い頃だったけど、曲はいっぱいあってレコード揃えるのも大変でした。一枚 2500 円ぐらいのレコードを、何ヶ月も待って親に買ってもらって、また待って別のを買ってもらって聴いて、みたいなことをしてましたね。

宮脇　私はキリスト教幼稚園に行ってたんですけども、クラスの前にいつも礼拝で黙想する時間があって、その時に先生がピアノで弾いてくれる曲が、ベートーヴェンのピアノソナタ「悲壮」の第２楽章で、私はそれを聴くのが大好きで本当に楽しみだったのを、今思い出しました。すごく好きな音楽って、やっぱり残ってますよね

塚田　言葉については、僕は詩が大好きで、いつも惹かれるものがありました。詩集を買ったりとかはあまりなかったけど、宮沢賢治は普通にすごいなと思ったし、詩で表現した時に伝わる言葉のすごさを感じてたと思います。それが中学の頃かな。
文学で言うと太宰治とかも読んだんですよね。『人間失格』を読んで、やっぱりすごく暗くなりました。

中山　あれは思春期に読むと結構ダメージありますよね。

塚田　すごいダメージでした。中２の時、両親が教会員のお宅に招かれて、僕もついて行ったんですけど、そのお宅で太宰読んでたんですよ。それで帰り道に「俺の人生は終わったか」みたいな感覚に襲われました。その時読んだところが一番衝撃的な所で、主人公が今までついていた嘘とか、作り物の自分がバレちゃうところで、それを読んで僕自身を重ね合せるようなところがあって、本当に、自分も人間失格だっていうところに落とされました。
僕はそっから自分探しが始まったっていうか、自分が何者かみたいなことを考えるようになりましたね。もう少し行くとちょっと哲学的なものも好きでしたね。哲学といえば、ＴＣＵでもキリスト教哲学は好きでしたね。稲垣久和先生の授業は、難しいという人もいましたが、僕は大好きでした。稲垣先生の著書『知と信の構造』はおすすめです。

中山　興味深いお話を聞かせていただいてありがとうございます。次に、お二人が持っている、リラの讃美全体の特徴や、リラのイメージについてお聞かせください。

宮脇　「祈り歌」みたいな感じかなって思います。神様に自分の思いをそのまま素直に話すように詩を紡いでくっていう感じなんで、それは、讃美だけど祈りかなって思っています。

塚田　基本的にそこは共有していると思うし、僕の中でも、詩篇 62 篇８節「あなたがたの心を神の御前に注ぎ出せ」というのが讃美の原点ですね。これは間違いなくリラの中に流れているじゃないかな。

中山　「主よ、あなたの声を聞かせて」は、塚田先生が作った最初の讃美歌ですか。心を注ぎ出すというのは、その時から変わっていないのですか。

塚田　今残ってる中では一番古い作品ですね。その時、自分の中にあったもの、本当にそう思ったことを

歌詞にしたと思います。それを書いたのは信仰の回復の時だったので、これからもう一回神様と歩んでいきたいという中で、あなたの声を聞いて、あなたに従っていきたいというものでしたね。そういう思いは、多分リラのメンバーみんな理解してくれてるので、讃美についての気持ちはひとつですね。

宮脇　みんな私たちが作った曲を本当に受け止めて、それぞれが自分のものとして歌ってくれてます。「こういう曲作って」とかも全然言わないし。レコーディングのときに、そのために新曲を作って欲しいというようなこともなかったですね。

塚田　昔、メンバーから「ちょっと暗い歌が多いね」みたいな感想的なものはありましたね。でも「アップテンポで元気な曲作って」と言われても「申し訳ないけど作れません、歌えません」と答えるしかないのは分かってるから、そういう無茶な要求はなかったですね。

中山　そのあたりにも、リラがここまで続いてきた秘訣があるように思いました。改めて、リラが結成から30年、6人になってから29年、メンバーひとりひとり働きの場所も召しも違う中で続けてこられたのはなぜでしょうか。

宮脇　縛らなかったというのはありますね。私たちがリラをやるというより、神様が許してくださったら、そのタイミングでコンサートしようとか、ＣＤを作ろうという姿勢は、ずっと崩さなかったし、まずリラを大事に、という風にしなかったのは大きいと思いますね。

塚田　本当にそうです。リラは自分たちの意思で生まれてきたものじゃないし、神様がしてくださらなければできなかったっていう感覚がみんなにあったと思います。大変な時期もあったし、それぞれ仕事もあって、誰かがもうやめようって言ってもおかしくなかったと思うんですけど、自分で始めたわけじゃないのに、やめるってどういうこと、という感覚はありましたね。神様が許してくださるなら応えたいっていう意識があって、それで続いてきたと思います。

中山　そういうところも自然体だったんですね。改めて将来、５年先10年先に、自分たちはこうなってるとか、こんなことしてるだろうみたいなイメージがあればお願いします。

宮脇　ここまでみんなが無事に生かされてることも感謝だし、これからも神様が許してくれるなら讃美していたいし、みんな信仰がなければ続けることもできなかったし、みんなイエス様を信じることやめなかったのは神様のおかげだと思います。自分も色々あって、神様はなんでこんなことなさるんだろうっていう時に、信仰が弱くなることが何度もあったから。メンバー全員が、信じることをやめないでここまで来れたっていうのが感謝だし、すごいことなので、これからも信仰を続けていけるようにって思います。

塚田　そうそう、みんないろんな中を通ってるので、これが現実、ありのままのリラだよね。神様が開いてくださるなら、生きている限り主を讃美する人生を、みんなで生きていきたいって思います。もうひとつ、最近、若い人たちからいろんな新しい讃美が生まれて来たらいいなって思います。リラを聴いてきた人でも、そうじゃない人でも、そういう人たちを励ましたいという気持ちはありますね。

1996「リラ」、1999「同じ空の下で」、2001「いつもともに」、2003「きっと朝（あした）には」、2008「かけがえのないもの」
2011「共に」、2013「めぐみのしずく」、2017「最後まで」、2018「わたしたちのこの口は」、2023「破れ口に立つ」

30 年前は今みたいじゃないなくて、讃美歌の神学とか音楽的なことについて色々な声があったので、だから、そういうこと超えて新しい人や讃美が生まれてくることを励ましたいと思います。最後に、外国の曲を日本語に訳した讃美歌は多いですよね。もちろん良いものもあるけど、違和感を感じたり、もっと日本語綺麗にできるのにとか、それなら英語で歌った方が良いんじゃないと思うこともあるので、そういうところでも何か良いものが生まれてきたらいいなていう気持ちはすごくありますね。

中山　日本のロックシーンも初期の頃は日本語がうまく嵌まらなかったですよね。それが今ではＪポップは日本語で世界に通用するようになりました。でも讃美歌はそこから 30 年以上遅れてる気がします。
福音讃美歌協会でも、讃美に取り組む若い人たちの中から良い日本語の讃美歌が生み出されるように応援していきたいと思いますので、一緒にそういう働きを進められたら感謝ですね。
宮脇さんからも若い人への励ましとかメッセージいただけるでしょうか。

宮脇　今は音楽とか言葉とかの縛りは何もないですよね。詩を書いたり音楽作ったりするのも、自分の心を素直に注ぎ出すことができるひとつのツールだと思うし、自分と神様との関係の中で本当に大切なことだから、そういうことを神様との関係の中ものとしてやったらいいかなって思います。

中山　最後にリラの讃美歌の中で、特に深い思いを持ってる曲があれば教えてください。

塚田　宮脇さんの曲で「詩篇 73:21-24」（194 番）ですね。詩人の思いが見事に表現されてるところと、讃美していて聖書の言葉が心に響いてくること。本当に自分が獣のような状態で讃美を捧げた時に、神様が右の手をしっかり捕まえてくださって、そこにただすがってる自分、それに頼るしかない自分がいて、リラで讃美した時にすごく励まされたことが印象にあるので選びました。

中山　私もこの讃美はすごく印象に残っていて、この言葉からこのメロディを紡ぎ出してくる人ってどんな人なんだろうって、ずっと思ってました。この旋律がつけられたことで、この御言葉の解釈に新しい光が当てられたと思いますね。

宮脇　次、私ですか。ちょっと何だろう、多すぎてわからない。その時その時に歌ってるから。

塚田　「空」とかじゃないの。

宮脇　「空」は私が一番初め作った讃美歌で、学生時代に讃美旅行みたいなので沖縄に行った時、みんなで空を見上げながら歌ったのを私は今も思い出しますね。

塚田　「空」は、自分が愛がなくて本当に悲しいっていう歌なんですよ。でもイエス様の愛はどんだけ広くて美しいんだろうって。

中山　足りない自分やダメな自分でも、支えてくださる神様がいるから、そのままで大丈夫、歩き出そうみたいなメッセージをリラの讃美から頂いてる気がします。

宮脇　ほんと、私、ダメなんで。

中山　そういうふうにサラリと言えちゃう素直さが素晴らしいと思います。本当に最後に、塚田先生、下川羊和（よな）先生との関りについてお話してくださいますか。

塚田　羊和先生のことは、新潟の牧師家族の関わりやキャンプで知っていて、悩みとか話せるクリスチャンの友達のひとりが彼だったんです。最初にお話した、ブラジルで自分の歌をカセットテープに録って親に送ろうって考えたのも、実は、当時ＴＣＵにいた妹とキリ神にいた羊和先生が、僕を励ますために２人で讃美を歌ってカセットに録って送ってくれたんです。前から羊和先生の讃美歌は素晴らしいと思っていて、僕はブラジルでそのカセットを何度も聴いてました。だから僕の讃美のベースには羊和先生の讃美があるんです。僕の信仰が回復する時も、その讃美を聴いていて、僕たちも最後はみんな神様の元に集めらるんだと思って、天上で多くの天の軍勢が讃美を歌っている景色の素晴らしさというか、自分も本当にその端っこでいいからそこで讃美していたいっていう気持ちになりました。僕にとっては本当に讃美を通して救われたっていうのと、そういう友人や支えてくれる人がいなかったら自分は本当にダメだったろうなっていうのがありますね。

中山　いろいろお話を伺いましたが、これから讃美歌を作りたいと思う人や、讃美歌を作る子供を育てたいと思う人にも、すごくいい刺激になると思います。長い時間ありがとうございました。

JCE7に参加して

第七回日本伝道会議

2023/9/19~22
長良川国際会議場

日本同盟基督教団
牧師　下川羊和

第７回日本伝道会議の様子は、今も YOUTUBE の動画を見て思い出すことが出来ます。集会の記録が手軽に確認できます。便利な時代になったものです。その視聴は覗き見以上の価値があります。

賛美はとても素晴らしかったです。50 を超えた私には知らない賛美がたくさんありましたが、バンドはよく整えられて、会衆を導くのに申し分ない技術と霊性を備えているように見えました。全ての集会を通して歌いなれた賛美歌の新しいアレンジによる賛美もあり、一層素晴らしいものでした。集会の流れに即した適切なアレンジがなされていて、古き歌も新しい歌として心から、かつ新鮮に献げられていました。これらもオンライン動画で確認でき、今も心の中で、共に賛美することができます。環境によっては、一緒に歌うこともできるでしょう。

多くの恵みの中で今も鮮明に残っているものの一つは、聖書講解を担当されたＹ牧師の奉仕でした。導入で近況を短くまとめた後､聴衆への最初の語りかけは｢みんなよくがんばったよね｣という言葉。誇張のない、心にまっすぐ響く言葉でしたが、会場に居合わせた人たちの、それぞれ異なった境遇にも関わらず、一つの声は同じように皆の心に届いたのではないかと想像できました。続く聖書の説き明かしは、昔から聞いてきた福音書のメッセージ。しかし今日を生きる説教者が、自分の心で今日読んだ聖書の言葉の今日のメッセージとして届きました。イエス様が私たちを宣教に遣わしておられる、だから私たちはその働きを担うのだという当たり前のことが確認されたことでした。イエス様こそ私たちの信仰の土台です。

そして応答の賛美がＹ牧師の作詞・作曲の歌。私は一世代年寄りの牧師なので、この歌がよく歌われていることは知っていましたが、集会で用いられている状況に共に参加したのはほとんど初めてでした。しかし、説教と応答の賛美が文字通り一体化した心からの賛美の時となりました。それは説教と賛美だけでなく、集った会衆の心も一つにまとめて神を仰ぎ見させる、心からの賛美、礼拝の時となりました。

『夢見人ドリーマー』は創世記 13:14 そしてヨブ記 42:2 に基づく賛美です。神に出会ったヨブのターニングポイント。そしてロトと別れたアブラハムの新しい出発を思いながら､今の私たちを重ね､未来を信じて踏み出すことを歌った歌。今後出版の『あたらしい歌３』に掲載予定です。次代を担う信仰者が、偽りのない言葉で信仰を告白し、神に歌いかけている現場に立ち会えたことは、私自身、改めて励まされる機会となったことでした。

写真　日本伝道会議･JEACS ブース。後左から　李俊昊前理事長、佐藤信行前副理事長、前列　下川羊和理事、脇田ユミ事務主事

『音楽教程』ボエティウス　伊藤友計訳　講談社学術文庫

金澤正剛氏が「中世の音楽を語る時、ボエティウスの名はあまりにも名高い。にもかかわらず、彼の音楽論とはどのようなものであるかと聞かれると、それに易々と答えられる人はきわめて少ないだろう。」（『中世音楽の精神史』）と評した古代ローマの哲学者ボエティウス（480-524）の著書『音楽教程』が翻訳出版された。「最後のローマ人」「最初のスコラ学者」と称されるボエティウスの思想は、中世を通して西欧キリスト教世界形成に大きな影響力を持っていた。

ところで「自由七科」はリベラルアーツとも呼ばれ、西洋学問の根幹をなした。言語系の文法、論理、修辞と数学系の算術、幾何、天文、音楽の７つの学問がそれである。現代人から見ると音楽が数学系に入ることは奇異に見えるが、音楽理論の成り立ちを見ると、その意味が理解できる。そして古代ギリシャの数学者ピュタゴラス（BC582-496）以降の音楽理論を整理翻訳して中世ヨーロッパに橋渡ししたのがボエティウスの『音楽教程』である。帯に「数比で解明する音程と協和―音楽理論の必須古典」とある通りである。

とはいえ、今現在、音楽に取り組む者にとって本書の有用性はほんの僅かしかない。「現実的にはほとんど、あるいはまったく意味や効用がないであろうような抽象思弁の積み重ねは無駄であり、さらに言えば有害である」（本書 P.69）というのは本書に向けられた批判を訳者がまとめたことばである。実際、「延々と果てしなく続くかと思われる比の計算、ただひたすらに音名を書き連ねることで示される旋法や音階のあり方など」本書を読了するには文系の人間が大学の数学テキストを読むような努力が求められる。ありがたいことに本書冒頭には 50 頁を超える「訳者解題」が付されていて、解題と本文最初の数章を読むだけでも、中世の教養人が考える学問体系と世界観、そして音楽のイメージを垣間見ることができるようになっている。

「福音讃美歌セミナー in 札幌」のお知らせ

■日時：2024 年 9 月 14 日（土）
■会場：北海道聖書学院　ZOOM 配信有り　参加費無料
■当日プログラム予定
　8:20-10:05：講演「あたらしい歌」への取り組み　講師：植木紀夫
　10:10-10:40：礼拝
　11:00-12:00：パネルディスカッション
　　「讃美歌を選び用いる ～礼拝実践の可能性と課題」
　　司会：蔦田直毅　　パネラー：HBI 教師、北海道地区教職・奉仕者、讃美歌委員
■主催：福音讃美歌協会・讃美歌委員会　　共催：北海道聖書学院

＊申込方法等、詳細は決まり次第、ホームページ、フェイスブック、
チラシなどでお知らせします。

＊会計中間報告＊

2023 年 4月～2024 年3 月

■収入の部■　(単位：円)

科　　目	2023 年度予算	中間報告
会員負担金	1,130,000	1,011,000
（正会員）	（750,000）	（750,000）
（準会員）	（60,000）	（0）
（賛助会員）	（320,000）	（201,000）
自由献金	350,000	272,000
積立金取り崩し	30,000	0
特別収入	0	0
その他	0	1
当年度収入合計（A）	1,510,000	1,283,001
前年度繰越金	2,284,310	2,284,310
収入合計（B）	3,794,310	3,567,311

■支出の部■

科　　目	2023 年度予算	中間報告
理事会費	106,000	25,241
委員会費	130,000	86,770
人件費	360,000	360,000
事務費	216,000	94,931
ジャーナル発行費	260,000	267,436
カンファレンス開催費	272,000	162,612
総会開催費	0	0
JEA 関係費	95,000	95,860
経常支出合計	1,439,000	1,092,850
特別支出　　積立金	100,000	0
予備費	300,000	88,000
当年度支出合計（C）	1,839,000	1,180,850
当年度収支差額（A）-（C）	-329,000	102,151
繰越額／残高　（B）-（C）	1,955,310	2,386,461

●賛助会費納入者・献金者一覧（2023 年 4 月～ 2024 年 3 月）（敬称略）

個人：斉藤眞木子、菅原早樹、山村雅彦、本間昭弘、中山信児、田近喜恵子、中山啓子、高橋和江、横倉知恵、安西仁美、福田崇、藤本侃也、渡辺真理子、大賀勝範、篠田安子、脇田立郎、土井倫子、匿名２名（19 件）

教会：都賀キリスト教会、下北沢聖書教会、上作延キリスト教会、千歳烏山光の子聖書教会、グレースコミュニティー、インマヌエル武蔵村山田園教会、菅生キリスト教会、インマヌエル富士見台キリスト教会、馬天キリスト教会、武蔵台キリスト教会、松見ヶ丘キリスト教会、泉キリスト教会、前橋キリスト教会、橋本キリスト教会、日本福音キリスト教会連合、インマヌエル板橋キリスト教会、インマヌエル別府キリスト教会（17 件）

お名前の掲載を希望されない場合は、通信欄に匿名希望とお書きくださるか、メール（info@jeacs.org）で、その旨をお知らせください。

ご挨拶と支援のお願い

「新しい歌を主に歌え。全地よ主に歌え。
主に歌え。御名をほめたたえよ。日から日へと御救いの良い知らせを告げよ。」

詩篇　96篇 1～ 2節

主にある皆さま
いつも福音讃美歌協会 (JEACS)の働きのためにお祈りとご支援をいただき、心から感謝いたします。
小歌集『あたらしい歌３』は、2012年刊の『教会福音讃美歌』に収録されなかった讃美歌や、発刊後に作られた新しい讃美歌を収録し、販売の準備を進めています。ニュースレターにて度々発売の予定を申し上げてきましたが、今年度中にはお届けできると思います。大変お待たせして申し訳ありません。
また、皆さまは「奏楽音源 USBメモリ」をもうお試しでしょうか？
これは『教会福音讃美歌』と『あたらしい歌２』に掲載されている 546曲のメロディと奏楽音源を収録したものです。この音源を活用するためには MP3プレイヤーフリーソフト『聞々(ぶんぶん)ハヤえもん』が便利です。曲の速度、音程を変えることができます。しかも使用方法が「奏楽音源 USBメモリいろんな使い方」というタイトルで YouTube上にアップされていますので、誰でも簡単に扱うことができます。活用の仕方は、まず福音讃美歌協会(JEACS)のホームページに入っていただき、「お知らせ」から指定の URLをクリックしてください。
福音讃美歌協会の働きはすべて皆様の祈り・励まし、そして会費、献金によって支えられています。私たちは引き続き正会員、準会員、賛助会員として福音讃美歌協会の働きを支えてくださる方々を心待ちにしております。どうぞご検討をよろしくお願い申し上げます。

◆郵便振替口座◆
番号 00220–1–95127
名称　　福音讃美歌協会

◆ゆうちょ銀行口座◆
〇一八店　普通　7252410
一般社団法人　福音讃美歌協会

■福音讃美歌協会　◆賛助会員募集
・「賛助会員」は、福音讃美歌協会の趣旨に賛同し、支援してくださる教会や個人の会員です。
・賛助会員のお申し込みは、福音讃美歌協会までメールかＦＡＸで入会申込書をご請求ください。
・賛助会員の年会費は、一口 5,000 円で、個人は一口から、教会は二口からでお願いします。
・正会員、準会員の詳細については、福音讃美歌協会まで直接お問い合わせください。

福音讃美歌協会（JEACS）
〒 101-0062　東京都千代田区神田駿河台 2-1　OCCビル　602号室
Tel.03-5341-6920　　Fax.03-5341-6921（いのちのことば社出版事業部内）
ホームページ　http://jeacs.org/　メール info@jeacs.org
Facebook　YouTube　JEACS で検索してください。